

# 樫の木だより

2021年4/1  
第102号

発行月(1/1・4/1・7/1・10/1)

ひとりひとりひかる

# きぼう

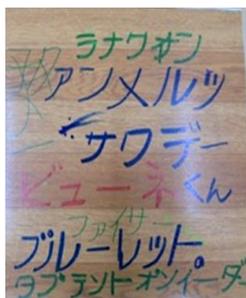
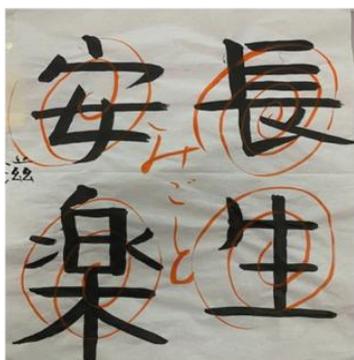
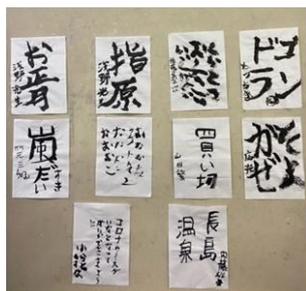
発行：樫の木福祉会（法人本部）  
かしの木の会

一宮市富田字砂原 2147

Tel/Fax 0586-63-2111 / 61-1200

樫の木福祉会 ホームページ

http : [www.kasinoki.jp/](http://www.kasinoki.jp/)



～樫の木福祉会の皆さんの創作活動から～

## 新年度のご挨拶

昨年度は、何と言っても新型コロナウイルス感染症拡大防止に明け暮れた1年でした。国や県からは、医療業務及び福祉業務は感染拡大防止策を最大限に講じつつ事業の継続を図るよう強く要請されていました。

現在まで、樫の木福祉法人内の利用者および職員から感染陽性者を出すことなく耐え凌いできました。

これもひとえに、利用者や職員及びその家族の方々のご支援ご協力の賜と感謝申し上げます。

残念ながら、昨年度は主な行事が例年どおり開催できず三密を避ける工夫をしながらの開催、あるいは中止を余儀なくされました。利用者にとっても重苦しい一年であったことと思います。感染拡大の第三波が収束しつつも第四波の心配が消えたわけではありません。

本年度は、もう一度障害者支援の原点に立ち返り、利用者にさらなる安心と希望が届けられるよう、支援の充実を図ってまいります。関係各位のご支援ご協力を切にお願い申し上げます。

樫の木福祉会 理事長 北川登



## 法人コーナーⅠ

### 事業所紹介① 榎の木作業所



#### 榎の木作業所『プレス班』のおはなし

「元気いっぱい」な A さんは作業室のムードメーカーです。いつも仲の良い利用者さんや職員とお話をし、場を明るい雰囲気してくれます。ただ、そんな A さんにも苦手なことはあります。

A さんは自転車を使って作業所まで通っていますが、朝の天気予報が雨を示している日は公共交通機関のバスを利用しています。普段は問題なく出来ていますが、当日の天気予報が外れて自転車で登園した日にバスで帰宅することが納得出来ません。泣いたり、大きな声を出したりして自転車で無理に帰宅しようとします。

雨が突然降ったり、大雪が降ったりした日は、職員は A さんにバスで帰宅するように早めに促します。また、反省会後にバスの時間まで傍にいて不安を取り除くようにしています。

A さんはそれでも不安そうに過ごしますが、このような経験を重ねて「バスで帰宅した方が良いこと」はなんとなく理解している様子で、退所時刻が来るまで頑張って過ごします。バス停に行く時刻になると、表情が少し和らぎます。貸し傘の色を選んでいるときや、近くのバス停まで職員がついていくことを伝えるときなどは少し笑顔も見られて会話も弾むようになります。

突然雨がふった翌日、A さんはとても良い笑顔をしていました。行動に成果が出て、周りから評価されているからです。A さんも「頑張った」「ちゃんとできた」など嬉しそうに話をしていました。苦手なことを克服するのは難しいですが、A さんは少しずつ成長しているのだと感じます。

「お仕事大好き」な B さんは仕事のスピードはとても速く、同じ作業室のみんなからも一目置かれた頑張り屋さんです。プレス班の作業では、機械や材料の不具合でときどきエラーが出ます。職員は検品をしてエラーを取り除くことで、製品の品質を保っています。

最近 B さんは、自分がプレスした製品をエラーにする職員に対して「お前が悪い」と強い口調で怒ってしまうなど、不適切な行動が増えました。

B さんは仕事のスピードが遅れるのが嫌なのです。利用者の方は完成した製品の枚数でその日の達成感を得ていて、エラーを補充するための作業は余分なことのようになってしまうのです。

職員は、B さんが仕事に対して真面目に頑張っているのは分かっているのですが、一緒に過ごす仲間にイライラをぶつけるのはやめてほしいと思っていました。B さんが怒っているときに耳に入る言葉は普段よりもとがった言葉しか入りません。怒って興奮している B さんに話をして物事を伝えることはとても難しいことでした。B さんが仕事への意欲的な姿勢は評価されていると実感しながら、やってはいけないことをしたときに「しまった」と思うにはどうやって伝えればよいか職員は悩みました。

職員は B さんが落ち着いているときに、お給料についてお話をしました。お給料を決める査定表は、仕事の他に对人関係や社会性なども重視します。そこで、お給料の半分は仕事の成果、もう半分は「いい人」であることが大切だと伝えました。お給料の半分は月末に渡し、もう半分は日払いで渡すことにしました。その日の仕事量と「いい人」で過ごせたかによって日給の額が変動します。お金の計算ができる B さんは意欲的に「いい人」を目指すようになっていきました。



土曜日は散歩に行きリフレッシュします

仕事への意欲を受け止めて高めていくようにするためにも利用者の方の仕事を安定して準備していくこと、感染症対策をしながらも何もしないで立ち止まっているのではなく毎日の生活を大切にすることが作業所でできることと考えます。

榎の木作業所 山田真

## 事業所紹介② 榎の木園

### 就労継続B型 『そよかぜ』の一日

職員の一日の始まりは、作業室内の環境整備です。利用者さんが気持ちよく作業に取り掛かれるよう、加湿器の準備や作業台等の清掃を行います。そうしている間に、利用者さんは登園されます。

元気いっぱいの挨拶に、私たちが元気を貰っています。ただ、コロナという事でマスク姿というのが残念です。

作業が始まるまでは、それぞれ思い思いに過ごします。一緒に新聞を読んだり、テレビを見たり、自宅での出来事などを教えてくれたりもします。

そして、みんな揃ってラジオ体操で体を動かした後、ようやく作業開始です。そよかぜの作業開始前にすることは、まず手洗い、手指消毒です。各時間枠、納品や移動販売などで外出した際も作業に取り掛かる前には行っています。

朝礼で予定を確認するとそれぞれ作業に取り掛かります。作業に集中出来るよう一人ずつ区切られたスペースで行い、利用者さんが行ったものを職員がチェックしていきます。



治具（作業補助具）を使って作業をしている場面

分業したものをそれぞれに取り組んで貰っている為、周りとの連携を意識した声かけを行うとキリッとした表情で取り組み、ペースが上がる事もあります。

またコロナの影響で材料が減ってしまい、その時間を使用して普段行っていない工程の作業にも取り組んでもらいました。「難しい」という言葉も出ますが、やる気に満ちた表情をされる方もいます。

休憩時間には、座り仕事が多い為、足のリズム体操や個々の体に合わせたストレッチを行っています。昼休みにはお喋りを楽しんだり、園の周辺を散歩して一緒に体を動かしています。



ストレッチの様子

そよかぜの作業には、外部での移動販売もありますが、コロナという事で激減してしまいました。予定表を見て「僕が行く」と張り切っていた方も、今は無い事に慣れてしまったようです。

反省会でその日の頑張りを確認しあい、帰宅準備に取り掛かります。安全に皆さんの帰宅を見守り、職員は明日の作業の準備に入ります。作業時間内に出来なかったチェックや利用者さんがやりやすいように材料の準備を行います。職員同士で利用者さんの様子を話し合い、支援内容等の見直しをしています。たわいも無い話をしながら職員の交流も深めています。

コロナの影響を受けてはいますが、その中でも新しい事にチャレンジしたり、楽しみを見出せるよう頑張っています。移動販売等を通し、地域の方々と気軽に関わる機会が、早く戻る事を願っています。

榎の木園 梶原未悠

## 事業所紹介③ ステップ

### 『ステップ』の1日

ステップの1日を、利用者Oさんを追う形でご紹介します。

朝8時半過ぎから9時前後にかけて利用者の皆さんがパラパラとステップの各事業所（明地工場、さいた、わがんせ）に到着します。Oさんは毎日片道約7kmの道を自転車で通っています。

今日はステップから岐阜の製薬工場までお仕事に行く日。出発までの約1時間、医療従事者が着る防護服たたみの作業をします。コロナ禍ならではの作業ですが、これまでも製品をたたんで袋詰めする作業に取り組んできたのですぐにできるようになりました。

この手の製品は髪の毛などの異物混入は厳禁なので皆さんB級品の防護服を着てキャップをかぶり作業をします。物々しい感じですが、なごやかな雰囲気で作業を進めています。短納期で慣れない作業ですが、今、世界中で必要とされている製品なのだからとチャレンジしています。



出発時刻になったので着替えて行くメンバー4人で車に乗り込みます。お昼を挟んで夕方まで製薬工場での緑地管理のお仕事です。途中で『わがんせ』に寄って、『わがんせ』で準備してもらったお弁当を積んでいきます。



また『わがんせ』で製造販売しているパンを早弁用にとって車中で食べながら行くこともあります。『わがんせ』からの応援を背に出発。製薬工場までAMラジオを聴きながら木曽川沿いを30分間のドライブです。

製薬工場ではお仕事をいただいている造園会社の庭師さんのご指示のもと、作業をします。広大な工場敷地内は木曽川の自然林を取り込んでいるので自然豊か。春夏は雑草と秋冬は落ち葉との競争です。刈り取ってもかき集めてもすぐにまた元どおり。それでも降り積もった茶色の落ち葉をかき集めその下から緑の地面が広がっていくのを見ると達成感があります。



昼休憩はお弁当を食べ終わると皆さん思いおもいに過ごします。木陰で昼寝をしたり、どんぐりや松ぼっくりを10リットルゴミ袋がパンパンになるまで拾い集めたりクワガタを捕まえたり。Oさんも最初のうちはどんぐりや松ぼっくり集めをしましたが、たくさんあり過ぎるためか、最近は興味を失ってしまいました。

昼休憩が終わると作業再開。冬場の3ヶ月間は15時まで。それ以外のシーズンは16時まで目一杯身体を使った草集め、落ち葉集めの作業です。終わる頃にはくたくたで帰りの車中ではどんなおしゃべりな人でも無言になって木曽川の夕景色を見るときもなく見えています。

ステップに戻るとすぐ帰宅。Oさんはまた自転車で帰っていきます。毎日、ステップの仲間と給料で推しのアイドルグッズを買うためにがんばって仕事をしています。

ステップ 古川和弘

## 法人コーナーⅡ

### 「中核市・一宮市」誕生

令和3年4月1日、念願であった中核市・一宮市の誕生です。当然、一宮市は、中核市にグレードアップしたかった理由がありました。①きめ細かな質の高い行政サービスで、市民の福祉向上を目指す。②地域の実情に合わせた独自の基準や政策により、一宮らしさを出すまちづくりをする。③尾張地方からの積極的な情報発信により、市の魅力をアピールする。などということでした。

特に、愛知県から権限移譲され、中核市が担う仕事として福祉、保健衛生、環境等の施策に変化の中心があるようです。当然、障害福祉サービスの分野にも変化があり、県所管の認可・監督指導は一宮市に権限移譲され、独自の施策の展開ができるようになります。

しかし、心配なのは、昨年度まで愛知県から支給されていた事業所運営に欠かせない補助金が、一宮市になったことでカットされたり、減額されたりすることです。福祉サービスを提供する法人としては、施策や補助金の有無によっては、利用者のニーズに合わせた質の高いサービスを提供しづらくなるからです。

#### お知らせ

- ・令和3年度の榎の木運動会の開催についてはどのような形であれば開催できるのか検討を進めています。開催方法も従来とは変更になる可能性があります。  
(無観客開催、分散開催など)  
確定しましたら、事業所やホームページを通してお知らせします。
- ・尾張西部障害者就業・生活支援センター「すろーぷ」の事業所の一部移転について計画中です。7月号で正式なお知らせをします。

もちろん、それに代わる市独自の施策や補助金が打ち出されれば問題は無いのですが。

もうひとつ、市民一人ひとりの声を中核市一宮市が拾いあげ、聞くことが出来るかが心配されます。

思い起こすのは、平成17年4月に一宮市が、尾西市、木曽川町を合併した時のことです。新生一宮市は、38万人都市となり安定した経済基盤が出来ました。その反面、旧尾西市、木曽川町などでは、広域になったことで市民・町民の顔が見られる地域密着型でなくなったという声が聞かれました。

それに対して、中核市となった一宮市には、県において色々な制約の中で対応しきれなかった課題について、一宮市独自の、きめ細かい充実した施策が展開されることを望まれます。

市民、一人ひとりの顔を見て、その人の意見を聞いて、そのニーズに添えてはじめて一宮市が中核市となった目的を果たすことができます。

名実ともに、「中核市・一宮市」の誕生。「おめでとう」と各地で声があがる市政を期待したいものです。

榎の木福祉会 本部

只井秀明

#### かしの木の会総会情報

令和3年度のかしの木の会総会は、新型コロナウイルス感染症の感染状況が読めない為、昨年度に引き続き、書面表決による実施とします。

「ほくたちの穏やかな日常が、はやくもどってきますように...」



かしの木の里 入所者  
Kさんの作品